

平成30年度

郡上市教育委員会
点検評価報告書

令和元年8月

郡上市教育委員会

- 目次 -

I 点検評価の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
1. 点検評価について	
2. 点検評価の対象	
3. 点検評価の方法	
II 点検評価の内容・結果	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
1. 教育委員会の活動状況	
2. 事務事業の点検評価の内容・結果	
III 点検評価委員の意見（総評）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 15

I 点検評価の概要

1. 点検評価について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会は毎年事務の管理及び執行状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが規定されました。

本報告書は、これに基づき、平成30年度の教育委員会の活動状況及び事務の執行状況の点検評価を行い、郡上市教育委員会点検評価委員の意見を付して報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検評価の対象

平成30年度の教育委員会の活動状況と教育委員会で行った事業のうち、重点的に取り組んだ事業を中心に点検評価の対象としています。

3. 点検評価の方法

点検評価では、教育委員会の事務事業の執行状況について、次に示す4区分により達成度の評価を行っています。

- (A) 順調に達成しているもの
- (B) おおむね順調に達成しているもの
- (C) 達成見込みであるが課題があるもの
- (D) 順調でないもの

II 点検評価の内容・結果

1. 教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催

教育委員会会議については、定例会議12回、臨時会議を1回、合計で13回の会議を開催し、会議の議題と審議結果をホームページ上で公開しました。議案、協議事項の審査及び報告を適切に行ったほか、委員からの情報提供や事務局から各事業の進捗状況及びその他の関連事項についても、意見交換を活発に行うことができました。また、12月と3月には教育委員会管理職等との意見交換会を行いました。

② 総合教育会議の開催

市長部局と連携し、総合教育会議を3回実施し、「郡上市教育大綱」・「郡上市教育振興基本計画」・「少子化に対応した学校規模適正化の取り組みについて」について協議しました。

③ 教育委員会研修・学校訪問の実施

岐阜県市町村教育委員会連合会研修会、美濃地区教育推進協議会研修会などの教育委員の研修会に参加し、教育に関する情報の収集や教育行政における諸問題を研究したほか、当年度は小中学校及び幼稚園33校の内10校の訪問を行いました。（その他に1校は公表会で別日訪問）訪問先の学校では、学校長から経営方針について説明を受け、教育や保育の現状を確認し、教育委員としての立場から感想や意見を述べる事が出来ました。

<活動実績>

区分	回数	内容
会議	13	定例会、臨時会
総合教育会議	3	市長と教育委員会の連携強化を図るための会議
式典等参加	41	入学式、卒業式、運動会
研修会	2	教育委員研修 教育委員会連合会研修
学校訪問	10	明宝小、大和西小、大和北小、口明方小、西和良小、和良小、高鷲北小、大和中、明宝中はちまん幼稚園
その他	2	意見交換会

2. 事務事業の点検評価の内容・結果

教育委員会では、学校教育と社会教育における平成30年度の重点目標を掲げ、各事務事業に取り組みました。

重点目標毎の点検評価の内容及び結果は、次のとおりです。

平成30年度調査研究・計画（案）作成・実施

目標1 郡上市青少年育英奨学資金貸付制度の利用促進

広報紙等により制度のPR活動を行ってきました。

本年度の制度利用者は月額金貸付が新規11名、継続28名で、一時金貸付5名でした。また、返還者97名中、郡上市に居住する方の返還一部免除の申請決定者は21名であり、利用の促進を図ることができました。

【事業名】

- ① 奨学資金償還の一部免除制度の利用促進

【評価】

(B)

目標2 教育振興基本計画改定

郡上市教育大綱、第2期郡上市教育振興基本計画の検証と社会の変化や課題を踏まえながら郡上市教育振興基本計画策定委員会において議論し策定しました。教育理念は、第1期、第2期を受け継ぎ「凌霜の心で拓く明日の郡上市～自立・共生・創拓の教育」とし、めざす姿、基本方針を定め、それらを具現化する重点施策等を定めた。会議は9回開催しました。

【事業名】

- ② 教育振興基本計画策定に向けた取組み

【評価】

(B)

目標3 小中学校の学校体制の検討

「郡上市小中学校の学校体制検討について」郡上市学校体制検討委員会に諮問し、現状の学校規模や今後の児童生徒数の推移、教育環境の変化等を踏まえ審議されました。また、地域協議会、PTAから意見聴取するとともに、保護者及び教職員を対象にアンケートを実施しました。こうした意見等も踏まえて検討委員会で議論され、「望ましい教育環境」、「適正規模」、「適正配置」等についての答申を受けました。

【事業名】**【評価】**

③ 今後の学校規模・学校の配置の検討

(B)

目標4 地域の拠点づくり

平成21年度から進められてきた新公民館体制への移行について、社会教育委員会を3回、市内公民館の視察を4回実施し、地域における公民館活動の現状や課題の調査と意見交換等を行いました。

【事業名】**【評価】**

④ 地域の姿の構想（地域づくりのあり方検討）

(B)

目標5 文化財の保護と活用計画

郡上市歴史資料館、白山文化博物館を中心に関係施設との調整や連携を行い、文化財の保護と活用への体制強化を図りました。

【事業名】**【評価】**

⑤ 文化財の保存体制、保護体制の見直し

(B)

目標6 郡上版コミュニティスクールの検討

小中校長会における3委員会（教育問題・教育施策・人材育成）のうち、教育施策委員会で、現在の郡上版コミュニティスクールの現状や今後の推進方法についての交流を行いました。さらに、小学校長会では、八幡西中学校・相生小学校で行われている地域と連携する組織づくりについての実践を聞き、各校長が自校の取り組みを踏まえながら意見交換を行いました。

【事業名】**【評価】**

⑥ 小中校長会との協議体制づくり、地域学校協働活動協議会の検討

(B)

目標7 小学校英語及びプログラミング教育の検討

令和2年度からの全面実施に向け、平成30～31年度は移行期に入ることから、国や県か

らの情報提供を確実に行うとともに、各中学校ブロックの小学校で共通理解を図り、今後2年間の時間数確保、新教材の利用の仕方、ALTの配置について共通理解を図りました。平成31年度のプログラミング体験講座の実施、教職員に対する研修のあり方について、専門家を交えて検討を進めました。

【事業名】

⑦ カリキュラム編成、教職員研修、教材等の調査研究

【評価】

(B)

目標8 スポーツ大会開催誘致

第9回全日本女子相撲大会、MIDLAND CUP U-12 Friendly GUJ02018（国際少年サッカー大会）、郡上グローバルラクビー女子7'S大会が開催されました。

高鷲スノーパークにおいて、第17回全国ジュニアスノーボード協議会兼SAJ公認2019全日本ジュニア選手権大会スノーボード競技・ハーフパイプ種目郡上大会、第25回全日本スキー選手権大会スノーボード競技・ハーフパイプ種目in郡上が開催され、大会実行委員会と連携し大会運営の支援を行いました。

【事業名】

⑧ 全国レベルの大会誘致・運営体制づくり

【評価】

(A)

目標9 スポーツ強化種目の充実

「テニス」、「バレーボール」、「射撃」を強化種目として位置付け活動支援を行い、ジュニア育成、競技力の向上を図りました。

【事業名】

⑨ 社会人の指導者・協力者等支援体制づくり

【評価】

(B)

目標10 スポーツツーリズムの取組

スポーツツーリズム専門員により、スポーツの合宿誘致調査として、東京都港区で開催された「みなとラグビー祭り」において、ラグビー関係者への合宿誘致に関するPRと聞き取り調査を実施しました。また、オーストラリアとのスポーツ交流についての調査・研究を目的として、オーストラリアクイーンズランド州を訪問しました。さらに、東京2020オリンピックホストタウン登録を行ったコロンビア共和国の大使館に赴き、事

前合宿の誘致活動を行い、コロンビア共和国ジュニアオリンピック女子ラクビーユースチームの合宿を誘致しました。

スポーツ合宿支援補助金制度を新設し、スポーツ合宿の支援（補助件数5件、補助金総額874,060円）を行うとともに、スポーツ合宿の誘致を促進するため、スポーツコミッションの組織化を目指し「スポーツコミッション設立準備委員会」を立ち上げ、関係部署、関係機関、団体と連携しながら協議を行いました。

【事業名】

⑩ 合宿誘致・ホストタウン構想の検討

【評価】

(A)

＜学校教育 重点目標＞

夢や確かな学力と豊かな心をもった郡上人を育てる学校教育

目標1 夢づくり教育事業

1. 夢に向かう目標をもち学習や活動に取り組む態度を身につける（高い志）
2. 郡上を知り行事や活動に参加し、郡上のこれからを考えることができる

郡上学体験学習事業では、すべての学校で郡上をフィールドにした宿泊体験学習（大日岳登山、ひるがの散策、あゆパーク、八幡散策、自然園でのキャンプ、ラフティング等の活動）を実施しました。各校の児童・生徒の実態及び地域の実情に応じた「郡上学」の全体構想に基づき、計画的に実施されました。中学校の出口の活動として、地域へ貢献する活動が増えてきており、「中高生の鮎の友釣り選手権」や「ゆかたデー」、「やまとの日」の除雪作業などに加え、「昔のくらしの聞き書き」「地元紹介プロモーションビデオ」の作成等、積極的に地域へ出かけ、活動する生徒が増えています。特色ある教育推進事業では、小中学校が実施する地域や学校の特色を生かした教育活動について、各学校の事業計画における趣旨に重点をおいて審査し、補助金を交付しました。

キャリア教育推進事業については、2年生（381名）が勤労体験学習を行いました。体験だけでなくキャリア教育の視点から、事前・事後指導に力を入れ、事前指導には、7.5時間（8校平均）、事後指導には、5.3時間かけ、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることにつながりました。教員の企業見学においては、中学校進路指導主事を中心とする23名が参加し、子どもたちの将来、郡上の未来を見据え、企業の仕事の内容や雇用状況等について知るとともに、今後求められる人材についての考え方等に触れることで、小・中学校におけるキャリア教育の視野を広

げることができました。

市内 8 中学校より 20 名が参加した、I T 産業で世界トップレベルの「日本オラクル株式会社」、港区の地域活性、福祉関連で活躍してみえる方との交流を通じて、グローバルな視野を広げることができ、成果の多い研修でした。2 泊 3 日の生徒の意識も向上し、研修後は各学校でも活躍し、学校のリーダーとしての育成が図れました。

ふるさとスポーツ体験事業については、冬季スポーツ体験として、スキー研修のバス代は平成 28 年度から保護者負担を無料としました。講師の協力によりスキーが大好きな子どもたちが増え、技術的に向上しました。

【事業名】	【評価】
① 郡上学体験学習事業（宿泊体験学習）	(B)
② (ふるさと学習)	(B)
③ (特色ある教育推進事業)	(B)
④ (キャリア教育推進事業)	(B)
⑤ リーダー育成推進事業（港区交流等）	(B)
⑥ ふるさとスポーツ体験学習	(B)

目標 2 学力向上事業

3. 学ぶ意味を知り、生活や学習に活かす学力を高める

4. 進んで体験・挑戦し、我慢強くやり抜く力を身につける

読書活動充実事業では、市内 30 小中学校において図書館司書が中心となって、各校で必要な図書を選定し整備しています。今年度は、寄付もあり、市内中学校の図書整備にあて蔵書の充実を図ることができました。

美濃地区学校図書館教育推進事業において、口明方小学校が優秀賞を受賞し、学校図書館が、家庭や地域と連携を図りながら、校内の心のオアシスとなり、豊かな人間性を養う読書センターとしての働きを高めるとともに、自ら学び、自ら考える力を育てる学習・情報センターとしての働きを高めることができたことと評価を受けました。

I C T 活用事業では、「郡上市教育情報化推進計画」に基づいて 4 校タブレット P C を整備しました。また、教職員向けの「プログラミング教育研修」(悉皆)を実施し、教師の授業での活用力の向上を図りました。テレビ会議システムでは、極小規模校と姉妹校の授業での活用、教職員の各種会議での活用（へき地複式教育研究会、事務職員部会、養護教諭部会、ブロックでの打ち合わせ等）が広がっています。

指導法改善事業では、10 月 26 日に白鳥小学校が公表会を行い、誰もが明日から実践できるシンプルでわかりやすい発表をコンセプトに、指導案のスリム化、発問の精選化を図った取り組みを公表するなど、郡上学関連で 8 校、指定研究推進校 4 校を指定し、

市内全般のモデルとなる研究を行いました。

英語指導助手招へい事業では、ALT7名を継続して雇用し、市内の全小・中学校の英語の授業に入れるように配置しました。小学校では高学年の外国語の時間数である年間50～70時間にALTがアシスタントとして入れるように勤務日の割り振りを行うことで、外国語活動の充実を図るとともに、教員の負担の軽減を図ることができました。

幼保小連携事業では、昨年度と同様、幼保小連携推進会議、協議会及び研修会を2回実施しました。第1回の幼保小連携推進会議（5月）を初めて明宝地域（明宝小学校）で実施し、入学後5月の新1年生の様子を参観し、会議を行うことで園と小学校で、めざす連携のあり方、子どもの姿について共通理解を図って取り組むことができました。なお、白鳥地域の私立保育園の参加が課題です。

中高一貫教育推進事業では、中高一貫教育評価委員会を2回開催しました。第1回の委員会では、今年度事業計画をする中で「ふるさと郡上の発展」に向けて郡上全体の縦モデルにしていくことを確認しました。第2回の委員会では、具体的な取り組みの中で特に「中高教員研修」によって授業の指導力の向上、地域交流として「公民館応援隊」の実践等が成果をあげ、委員から好評を得ました。

【事業名】	【評価】
① 読書活動充実事業	
(1) 読書活動の充実（図書購入）	(B)
(2) 学校図書館整備（図書館司書の配置）	(B)
② ICT活用事業（プログラミング教育・テレビ会議）	(B)
③ 指導法改善事業	
(1) 市指定研修校補助	(B)
(2) 市指定研究推進校補助	(B)
④ 英語指導助手招へい事業	(B)
⑤ 幼保小中連携・中高一貫教育推進事業	(B)

目標3 心の教室推進事業

5. 認め合い、高め合う人間関係を深め、広げる力を身につける
6. 自立して生活できる知識や技能を身につけ、社会で活かすことができる

道徳教育推進事業では、年間5回の道徳教育研修を実施しました。（受講者は30名、全5回の受講者は延142名）特に若手の教員を対象として道徳の時間の授業力向上を図る研修を実施することができた。研修の講師として、聖徳学園大学河合宣昌先生を招き、新学習指導要領全面実施「特別の教科 道徳」についての理解を深め、準備を進めるための情報提供を行うことができました。

不登校対策では、相談件数の増加に対して、平成 29 年度から相談員を 2 人体制とすることにより、今後の対応の打ち合わせ時間の確保とともに相談内容の質の向上を図ることができました。(H30 年度：相談件数 76 人 (29：73 人)、うち継続 45 人 (H29：42 人)、新規 31 人 (H29：31 人)、延べ 592 回 (H29：468 回)) 最近、発達障がい、修学に関わる相談、保護者自身の相談が増加しています。

小中学生の適応指導教室「スマイル」の利用状況は (H28=4 人→H29=8 人→H30=9 人)、H29 年度より北部にスマイルを開設したことで、白鳥地域の子が親の送迎の負担が減ったことにより通級できる日数、時間が増えました。また、学校とスマイルの距離が近くなったことで、学校の先生も時折、教室に会いに来れるようになり、学校とのつながりもとりやすくなりました。また、学校で精神的に不安定になった生徒がスマイルに通級して徐々に落ち着きを取り戻し、学校に復帰することができた事例もあり、北部スマイルの開設は大変効果的でした。復帰人数 H29 年度 0 人、H30 年度 2 人。完全復帰ではないが、登校日数を少しずつ増やせている生徒もいます。H31 年 4 月に学校復帰した生徒 2 名。

全中学校に「心の教室相談員」を配置し、不登校やいじめ等の相談対応を行いました。8 校の中学校すべてにおいて落ち着いた生活の様子が見られ、年間 30 日以上の不登校 H29 小 16 名、中 38 名、H30 小 21 名、中 34 名で小学校は 5 名増、中学校は 4 名減、H30 年 2 月末現在で、いじめの認知件数は「いじめ防止基本方針」の改定により大きく増加していますが、不登校は 1 件減っており、早期発見、早期対応・解決につながっています。H30 年度の 51 件のうち解決 33 件、解消への継続的な取り組み 18 件。

F R 教育臨床研究所 所長 花輪敏男先生を講師に、不登校の未然防止、不登校のこの学校復帰についての実践的な研修を各学校のリーダー、生徒指導主事、教育相談担当者に 2 回に分けて開催しました。

【事業名】	【評価】
① 道徳教育推進事業 (教職員研修の充実)	(B)
② 不登校対策充実事業	
(1) 市相談員の配置 (北部・南部体制)	(A)
(2) 適応指導教室 (スマイル) 開設	(B)
(3) 中学校相談員の配置	(B)
(4) 教職員研修の充実 (心の教育教職員研修)	(B)

＜社会教育 重点目標＞

元気なふるさと郡上を築く社会教育

目標 1 地域ぐるみで子育てを支援し、家庭の教育力を高める

家庭教育学級は、各幼稚園、小中学校、保育園合わせて 54 学級を開設して子育ての学習や保護者の交流を行う機会を提供し、指導者や担当教諭の研修も実施しました。さらに放課後子ども教室推進事業では、ふるさとの歴史、文化、産業を学んだり、自然体験を行う講座の開催（計 10 回）や、夏休み期間中に図書館子ども講座を 26 回開催しました。読書好きの子どもを増やすため、家庭における本を読む時間や読んだ本について話し合う「家読（うちどく）」を推進しました。市内図書館においても図書の計画的な購入により蔵書の充実を図りました。また、青少年育成活動推進事業では、青少年育成市民会議へ事業委託し、少年補導員 57 名の委嘱の他、巡回活動や青少年の作文募集などを実施しており、2 月には P T A との協賛で郡上教育フォーラムを開催しました。

【事業名】

- ① 家庭教育学級事業
- ② 放課後子ども教室推進事業
- ③ 図書館子ども読書活動推進事業
- ④ 図書館管理運営・図書等整備事業
- ⑤ 青少年育成活動推進事業

【評価】

- (B)
(B)
(B)
(B)
(B)

目標 2 学習や活動に積極的に参加し、生きがいや暮らしを高める

生涯学習振興事業では、情報誌「まなびネット郡上」で周知しながら市民アイデア講座を開催しました。また、地域公民館では独自性を活かした活動が実施されるよう 26 地区公民館に活動補助金を交付しており様々な事業を実施しました。

郡上学推進事業では、郡上学地域講座・白山文化ゼミナール・歴史講座等を実施し、第 6 回郡上かるた大会には、191 チーム（573 名）の参加がありました。また、文化振興事業では、文化協会を支援し、文芸祭・美術展等の開催や、円空のころこどもの造形大賞の開催やジュニア短歌育成事業を実施するなど、郷土愛の醸成を図りました。

【事業名】

- ① 生涯学習振興事業
- ② 公民館活動経費

【評価】

- (B)
(B)

- ③ 郡上学推進事業（歴史講座・郡上かるた関連事業含む） (B)
- ④ 文化振興事業（文化協会活動補助・文化事業等） (B)

目標3 市民協働活動・地域活動に取り組み支え合う地域づくりをする

第5回郡上市公民館まつりを開催し、自らの地域の公民館活動のみならず他地域の活動についても知っていただく機会を持ちました。また、市民協働活動・地域活動に取り組む支え合う地域となるよう様々な活動交付金を交付し、特に女性や青年が公民館に集って活動することに対し1地区に特別交付金を交付しました。

展示やイベントを市民と共に企画運営することで、集客等を図ることを目的に美並ふるさと館、日本まん真ん中センターにおいて行政パートナー事業に取り組みました。

【事業名】	【評価】
① 公民館活動経費（再掲）	(B)
② 社会教育団体育成事業（女性の会・青年団等）	(B)
③ 青少年育成活動推進事業（再掲）	(B)
④ 行政パートナー事業	(B)

目標4 ふるさとの文化を伝承、発展させ文化を大切にしたい地域づくりをする

八幡城跡保存活用計画に基づく具体的な作業を進めていくことを目的として、石垣測量調査と石垣電磁波レーザー探査調査を実施しました。

文化財保護事業では、市指定以上の天然記念物の樹勢回復のための補助事業（那比新宮神社の社叢樹勢保護、白鳥神社の森樹勢保護）を実施しました。

県指定文化財については、中津屋嘉喜踊用具新調に対して補助金を交付しました。国指定文化財については、長瀧寺「宋版一切経」保存修理に対して補助金を交付しました。

伝建地区内事業では、家屋の修理6件（H29：修理6件、修景1件）を実施し、さらに防災計画に基づき、消火栓を新規に6基設置しました。また、八幡公民館駐車場内に案内看板を設置しました。

郡上市史編纂事業では、市史編纂に向け、市内の小中学校で保管している歴史資料の悉皆調査、また、今後において歴史資料となる明治以降の公文書の目録を作成するとともに、随時、個人所有の資料の調査と受入・整理及び写真フィルムのデジタル化を行いました。

歌のまちづくり事業では、短歌を核とした事業の実施や、歌のまち「古今伝授の里」として、NHK学園全国短歌・俳句大会を開催しました。また、大和地域において、歌となる言葉とかたち展や、古今伝授の里ジュニア短歌大会などのジュニアに対する短歌

育成事業を実施しました。

円空の里づくり事業では、「円空のふるさと美並」を市内外に発信することを目的として、美並ふるさと館での企画展や、円空のこころこどもの造形大賞を開催しました。

青年層の活性化及び伝統芸能の継承支援のため、郷土芸能フェスティバルを開催しました。

【事業名】	【評価】
① 資料保存活用事業（郡上市歴史資料館）	(B)
② 八幡城跡保存管理事業	(B)
③ 文化財保護事業	(B)
④ 伝建修理・修景事業	(B)
⑤ 伝建防災事業	(B)
⑥ 郡上市史編纂事業	(B)
⑦ 文化振興事業（文化協会活動補助・文化事業等）	(B)
⑧ 伝統芸能継承・伝統文化継承事業（短歌・郷土芸能フェスティバル等）	(B)

目標5 スポーツを通じた健康づくりや地域づくりをすすめる

生涯スポーツ振興事業においては、各地区の公民館事業等と連携し市民が気軽に参加できる軽スポーツ大会及びスポーツ教室等を実施し、公民館スポーツ事業も含め、延べ12,432人の市民参加を得ることができました。

少年スポーツ推進事業では、少年スポーツ団体連絡協議会において「CAPプログラム（暴力防止教育）」、「成長期のスポーツ障害と初期対応」と題し2回の指導者の資質向上に努めました。

体育協会支援事業では、郡上市の総合体育大会や駅伝大会の開催、県民スポーツ大会等への選手派遣、優秀選手への表彰、小中学生を対象としたスポーツ教室の開催等、競技力向上とジュニア育成の取り組みを行いました。平成31年度から郡上市スポーツ協会として新たにスタートするために検討委員会を立ち上げ組織体制の見直しを図りました。

スポーツ大会開催事業では、第9回全日本女子相撲大会、MIDLAND CUP U-12 Friendly G.U.J.02018（国際少年サッカー大会）、郡上グローバルラグビー女子7'S大会が開催されました。

高鷲スノーパークにおいて、第17回全国ジュニアスノーボード協議会兼SAJ公認2019全日本ジュニア選手権大会スノーボード競技・ハーフパイプ種目郡上大会、第25回全日本スキー選手権大会スノーボード競技・ハーフパイプ種目in郡上が開催され、大会

実行委員会と連携し大会運営支援を行いました。

スポーツ強化種目育成事業では、強化種目として指定している「スキー」、「バレー」、「射撃」の組織強化、競技力向上、種目強化支援を行いました。

スポーツツーリズム推進事業では、スポーツツーリズム専門員により、スポーツの合宿誘致調査として、東京都港区で開催された「みなとラグビー祭り」において、ラグビー関係者への合宿誘致に関するPRと聞き取り調査を実施しました。また、オーストラリアとのスポーツ交流についての調査・研究を目的として、オーストラリアクイーンズランド州を訪問しました。さらに、東京2020オリンピックホストタウン登録を行ったコロンビア共和国の大使館に赴き、事前合宿の誘致活動を行い、コロンビア共和国ジュニアオリンピック女子ラグビーユースチームの合宿を誘致しました。

スポーツ合宿の誘致の促進と窓口の一本化を図る郡上市スポーツコミッション(仮称)の設立を目指し、関係機関団体と設立準備委員会を立ち上げました。

体育施設整備事業では、市建設計画に基づき老朽化した体育施設の改修等を実施したことで、利用者の安全性と利便性の向上が図られました(体育施設修繕改修工事等9件、設計監理業務委託1件、備品購入2件)。

【事業名】	【評価】
① 生涯スポーツ振興事業	(B)
② スポーツ推進委員活動事業	(B)
③ 少年スポーツ推進事業(再掲)	(B)
④ 体育協会支援事業	(B)
⑤ スポーツ大会開催事業	(A)
⑥ スポーツ強化種目育成事業(再掲)	(B)
⑦ スポーツツーリズム推進事業	(A)
⑧ 体育施設整備事業	(B)

Ⅲ 点検評価委員の意見（総評）

点検評価懇話会について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項「教育委員会は、前項の点検評価及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。」及び郡上市教育委員会点検評価実施要領に基づいて、教育に関する有識者2名の知見の活用を図り評価を行っています。

点検評価委員は、教育委員会事務局が実施した事業等における自己評価（第1次評価）に基づく、点検評価懇話会を開催し、最終評価をした後、議会に報告いたします。

この度、教育委員会が行った点検評価について、令和元年8月23日に点検評価懇話会を開催しました。懇話会では、事業と自己評価について説明を行い、外部評価委員に意見をいただきました。その中で示された意見は次のとおりです。

〈総評〉

懇話会では、平成30年度に教育委員会事務局が行った事業等の概要について説明を受け、一定の成果が出ているものや、概ね達成できたが一部において課題があるものについて協議を行いました。

評価の方法については、昨年度の懇話会において、評価委員と事務局との間で共通理解をした、予算どおり順調に実施できた場合は原則「B」とし、成果が顕著であるものを「A」とする等を踏まえて評価を行った旨の説明を受けました。

懇話会では、主に「成果」、「課題」、「方針」等について説明を求め意見交換を行い、今後に向けた課題解決などについて意見を述べました。

この度の郡上市教育委員会の点検評価結果について、以下のように総評いたします。

1. 教育委員の活動に関する総括

教育委員長と教育長を一本化した新教育長制度が施行されてから3年を経過しました。

総合教育会議では「郡上市教育大綱」、「郡上市教育振興基本計画」等が議論されるなど、首長部局との連携強化が図られていると思われまます。

また、郡上市小中学校の学校体制について、地域協議会、PTAから意見聴取するとともに、保護者や教職員にアンケート実施するなど慎重に議論されたことは大変有意義であったと思います。子どもたちのため、より良い教育環境の実現のため議論を深めていただきたいと思ひます。

2. 教育委員会事務局の事業に関する総括

【学校教育について】

令和2年度から新学習要領が小学校で全面実施されることから、教職員の指導力向上のためプログラミング教育等の研修が行われていますが、教職員の過度の負担とならないよう配慮いただくとともに、子どもたちに確かな学力が身に付くようお願いいたします。

また、若い先生が増える中、現状の学校経営を維持していくことが懸念されることから、慣例的な業務を精選していくことや、教師用手引書（教科スタンダード）の改訂等教育委員会と学校が連携し、調査研究を行っていただきたいと思えます。

幼保小連携事業では、連携が深まってきたことにより、小学校への入学がスムーズになってきたと感じています。今後も、子どもたちが小学校入学に負担を感じないように交流を深めていただきたいと考えます。

不登校対策事業では、相談員を2人体制としたことにより、保護者が気楽に相談できる環境が整い、未然防止や早期発見、早期対応が可能になったなど、大きな成果と考えます。

【社会教育について】

公民館活動は公民館長、主事、専任主事など、公民館職員の地道な取り組みにより質の向上が図られていると思えます。

また、自らの地域の公民館活動のみならず他地域の活動を学ぶ機会が設けられておりますが、講座等に反映させ、魅力ある公民館活動になるよう今後も一層の努力を期待します。

文化財保護事業では、台風による天然記念物の被害に対して迅速に対応するなど、文化財の保護に努めていただいています。こうした地道な取り組みを継続していただきたいと思えます。

市の図書館は、本館は広く明るく、図書の内容も充実し利用しやすい環境ですが、施設の充実が必要な分館もあります。市民が身近に本を親しむことのできる図書館環境の整備を望みます。

【スポーツ振興について】

スポーツ振興については、施設設備の整備が進み、ラクビーの大会、合宿の誘致等目に見えるかたちで成果が出てきたと思えます。子どもたちが、身近にいろいろなスポーツを見て興味を持つことは大切だと思えます。一層の取り組みを望みます。

また、少年スポーツ活動の支援や指導者の資質向上など、地道な活動が継続されてきたことにより子どもたちが各種大会で活躍するなど、着実に成果が出ています。このような取り組みを継続していただきたいと思えます。

〈全体総評〉

教育委員会事務局の事業は大変幅広く内容も濃い中で、事務局や学校現場教職員、そして地域の住民の皆さん方の連携や日々の努力によって、全体的に良好な結果となっていることに対し、それぞれの努力に敬意を表したいと思います。

評価の方法については、事務局と評価委員が共通理解できたことから、適切に自己評価されていたと思います。評価が「A」から「B」に下がった事業については、評価の基準を変更したことによるものと理解します。成果が顕著に出ているものが際立ち、理解しやすい評価となったと思います。

なお、学校教育においては、新学習指導要領の実施などにより教職員が対応しなければならない職務が多様化しています。とりわけ教職員の多忙化等への対応は急務と考えます。多忙化を解消するために業務の精選や重点化を行うなど、教育委員会と学校が連携し調査研究を行っていただきたいと思います。

また、社会教育とスポーツ振興においては、地道な活動の成果が徐々に出てきたと考えます。市民が、より魅力を感じて参加できる活動を、教育委員会と市民の協働により取り組んでいただくことを期待します。

令和元年8月23日

郡上市教育委員会点検評価委員
畑中 かよ子
日置 貢